

心と体を育む 体育の実践

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校小学部

全校児童数	28名 (男子13名 女子15名)		
全クラス数	9	教職員数	16名 (内体育専科0名)
クラブ活動または 運動部活動	数	0	
	参加延べ人数	0人	
地域のスポーツ指導者の活用 (年間延べ人数)	0人		

Plan ▶▶▶▶▶ 取組時の課題と計画

1 取組時の課題

運動の機会が非常に少ない

小学生用の遊具がないため、休み時間に自然につくであろう体力がついていない。また、車や電車・バス通学のため、歩く機会も少ない。3学年合同の授業をせざるを得ないが、体力差の大きさなど、課題も多い。

2 取組の計画

- ① 体育の授業（体育大会、マラソン大会前は休み時間でも）で運動量を確保することをねらう。
- ② 楽しく、かつ体力がつき、自分から取り組もうとするように導く授業を組み立てる。
- ③ 互いの伸びを認め、喜び合い励まし合える集団を作る。

Do ▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶ 取組の内容

1 運動量の確保

(1) 授業

汗をかくぐらいの運動量の確保を目指し、授業外や家庭でもできる運動を児童に紹介している。

(2) 休み時間

体育大会の前は、一輪車演技を始業前や休み時間も自主練習している。マラソン大会前の1か月間は、毎日朝10分、休み時間10分走るチャレンジランニングを設定、積算で42.195kmをクリアする児童も多数出ている。

2 楽しくて力のつく授業

(1) 体育カードの作成

種目ごとに達成カードや記録カードを作成し、目標が具体的にわかり、励みになるようにしている。

(2) 視覚的支援の工夫

活動の説明をする時、音声や手話だけでは伝わりにくい場合があるため、文部科学省配布のDVDを活用し、支援の一助としている。また、実際に児童の動きを動画撮影し、その場で確認することで、自身のフォームを修正したり、友達にアドバイスをしたりしている。

(3) 記録、伸び率の掲示

水泳、なわとび、跳び箱等の到達記録を「体育掲示板」に貼り出し、毎時記録が伸びるたびに更新する。昨年または初回の記録と比べた「伸び率」も貼り出して、ふだん上位に名前が出ない運動が苦手な児童も、諦めず

に自信をつけながら、次への挑戦につなげている。

3 集団づくり

上級生が下級生に、「回れ右」などの基本動作をはじめ、運動のポイント、生活の規律、遊び道具の使い方等を教える。上級生は、教えることで、下級生の成長もともに喜ぶことができる。

●工夫したこと

- ① 「ほめて育てる」を念頭におき、どの職員にも見守られている安心感が、児童に良い影響をもたらせればと願い、授業中での児童の頑張りや心の成長を担任にも伝え、全教職員で思いを共有できるようにした。
- ② 3学年一緒に授業をする中（特にゲーム運動）では、障がいの実態の差でチームを作り、ルールを変更しながら行うなど、ねらいや時間配分を、工夫した。

Check ▶▶▶▶▶ 取組成果の評価

- ① 体育の時間はもちろん、毎日始業前や休み時間に、一輪車やなわとび、持久走を少しずつでも継続していくことで、力がついたことがたくさんあった。
- ② 運動に苦手意識があってもとにかく自分のできることを一生懸命行い、前向きに取り組む姿が日々見られた。

Action ▶▶▶▶▶ 今後の課題と取組

- ① 個々に伸びは認められるものの、まだまだ体力は低い。更に有効な手立てが必要である。
- ② 3学年合同（重複障害児も含む）授業であるため、体力差がある。一緒に活動する場面と、課題別グループに分けて活動する場面とを適切に配分し、支援の方法を更に検討していく。

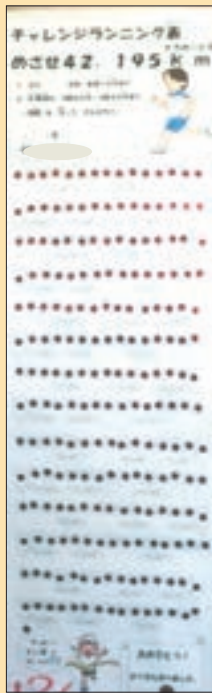
体力の向上の取組がもたらす波及効果

努力が実を結ぶという体験を通し、自信をもち、自己肯定感が高まったと感じる。それに伴い、友達の良さも素直に称えられ、教員の話をよく聞き、清々しく真っ直ぐ生きている児童が育っており、学部全体で「共に伸び、喜び合える」が体现できている。

チャレンジランニング
(約1ヶ月間)



10分間、200mトラックを走った周数だけシールをもらえる。211枚(フルマラソンと同じ距離)を目指して走っている。毎回全力で走る上級生の姿を見て、下級生もついていこうとするようになる。順に上級生になる自覚ができてくる。



タイムの伸びを
グラフで表した。



フォームの動画
撮影、日記紹介
等もした。



今日の朝とぎょうかん休みにチャレンジランニングをしました。その時、ライバルもいなくて、すつげえ楽しくなかつた。やつぱりライバルがいると、「あいつに負けない、負けるもんか、最後は絶対にぬかす」という気持ちがあるから、楽しい。マラソンって、行事じゃなく、友だちと仲間を深めるためのものじゃないかなと思う。みんなも1位を取りたい、負けたくないと思ってるし、一年生は次々来るから、その気持ちを教えたらいいなと思います。がんばるぞー！

体育大会 一輪車演技

最上級生が乗る背高一輪車。憧れの技。



自主的に集合をかけ、練習方法を相談しながら進めている昼休みの1コマ。体育大会前は特に意識が高い。本番の集団技に入る予定のない下級生も仲間に入れ、楽しみながら練習している。



友達の成功を自分の事のように喜び、本番でも思わず拍手する子供たち。心を一にする学部だと実感する。

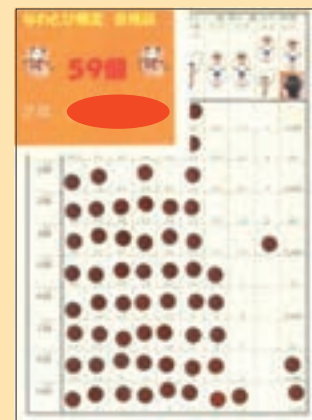


体育掲示板



顔付きの画紙を記録更新ごとに移動させている。

体育カード



「合格」「シール」だけ目指すのではなく目標や励みとして使うようにしている。

少人数授業とチーム・ティーチングの充実

岐阜県立岐阜聾学校（中学部）

全校生徒数	22名（男子9名 女子13名）		
全クラス数	6	教職員数	16名 （内保健体育科2名）
運動部活動数	3	運動部活動参加率 （全学年）	87%
地域のスポーツ指導者の活用 （年間延べ人数）			1人

Plan ▶▶▶▶▶ 取組時の課題と計画

1 取組時の課題

個々の能力に大きな差

本校は、聴覚に障がいや有する生徒が学ぶ特別支援学校である。知的障がいや併せ有する生徒も在籍し、実態は多様である。少人数のため、3学年が合同で体育の授業を行っている。そのため、学年や個々の運動の能力に応じた指導を図ることが課題である。

また、運動系の部活動に所属していない生徒は保健体育の授業以外での運動経験が少ない。部活動に所属していても聴者とかかわりの中で自分に自信がもてなくなってしまった生徒も多く、活躍の場を設けることで自己肯定感を育成する必要がある。

2 取組の計画

- ① 個々の実態に合わせた指導体制の改善と指導方法の工夫を図る。
- ② 授業や体育的行事を通して、運動に対する意欲や自己肯定感を育む。

Do ▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶ 取組の内容

1 個々の実態に合わせた指導体制の改善・指導方法の工夫

(1) 少人数での授業実施

年間105時間のうち35時間は各学級（1学級2～6名）で保健体育の授業を行う。少人数で行うことで、より理解の確認や定着、技術の向上を図る。また、個々の目標設定の時間を確保する。各学級の授業は、保健体育科教員1名とサブティーチャー1名の合計2名で行う。

(2) 合同体育によるチーム・ティーチングの充実

合同体育では、保健体育科教員2名と情報保障等の聞こえにくさをカバーする教員3名の合計5名の体制で授業を行う。生徒の実態によってグループ別に活動し、適宜個別指導を行う。

2 個々や学年に応じた活躍の場づくり

(1) 球技大会（バレーボール）

6月の球技大会では3年生が話し合いをしてチームの案を考え、仲間を引っ張るという活躍の場を設ける。

(2) 運動会

9月に本校の幼稚部、小学部と合同で行う運動会で

は、3年生を団や係のリーダーとし、中学部の生徒を中心に運動会を進めることで、活躍の場を広げる。

●工夫したこと

- ① 聴覚に障がいや有するため、手本や映像等の視覚的な情報を工夫して、技術指導にあたった。
- ② 授業前に体力づくりを行い、体力の向上を目指した。
- ③ 球技大会で3年生を中心にチーム案を作成することで、リーダーとしての意識付けを図った。

Check ▶▶▶▶▶ 取組成果の評価

- ① 少人数やチーム・ティーチングの体制によって理解の確認と定着、細かい技術の確認ができ、運動能力の向上を図ることができた。
- ② 3年生がリーダーとして中心になり、学校行事やふだんの授業等を行うことで、授業への意欲の向上につながった。球技大会では、全員が楽しめるように1・2年生に配慮をしたルールづくりをしたり、自主的に練習を呼び掛けたりする姿が見られた。運動会では1・2年生が3年生の姿を見て「来年は自分たちがみんなをまとめる」という意欲が向上し、自己肯定感も高まった。

Action ▶▶▶▶▶ 今後の課題と取組

- ① 常に変化していく生徒の運動能力やコミュニケーション能力の実態に合わせ、指導方法の工夫や改善は今後も必要である。
- ② チームでの作戦会議や意見交換を通して、本校の課題であるコミュニケーション能力の向上を図り、ふだんの生活にもつなげられるようにする必要がある。
- ③ 積極的に聴者とかかわりがもてるように他校との交流や部活動等を通し、社会に適応する能力を育成する必要がある。

体力の向上の取組がもたらす波及効果

保健体育での理解の定着や技術と意欲の向上により、朝練習や家庭での練習を自主的に行う生徒が増えた。保健体育以外の授業においても授業の準備を手伝うなど自主性が生まれた。

個々の実態に合わせた指導体制の改善と指導方法の工夫

少人数での授業の実施

個別の対応による
技術の向上



各学級での理解の確認や技術向上

チーム・ティーチングの充実



合同体育での体育教員とサブティーチャーの体制

個々や学年に応じた活躍の場づくり

球技大会



3年生を中心とした活躍の場づくり

運動会



幼・小合同運動会でリーダーとして活躍

活躍の場による意欲の向上



チーム案やルールづくりによる意欲向上



運動会に向けての自主的な練習

授業前の体づくり運動



筋力アップによる体力向上

体力の向上

第2章
分析結果と
取組事例

テーマ
3

体力・運動能力の高い児童生徒・学校の特徴